

笑顔いっぱい

広島中央保健生活協同組合 総合病院 福島生協病院

春号
(第45号)

発行日/平成27年4月1日

発行・編集

福島生協病院編集委員会
広島市西区都町42番7号
TEL082-292-3171(代)

ホームページアドレス

<http://www.hch.coop/fukushima/>

もしもプロジェクト~たくさんの英知を新病院建設に

新病院建設委員会事務局 堂垣内 美穂

新病院建設にかかわりながら、直接間接に作業する人々を思う時、何かを創造するのは本当にたくさんのエネルギーを必要とすることを実感しています。新病院建設がはじまったときから必要に応じてたくさんのプロジェクトが設置されています。もしもプロジェクト(通称もしプロ)もそのひとつです。もしプロは、組合員さんが中心となり職員とともに建設運動をすすめていくことが任務です。もしプロの正式名称は「もしも組合員34,000人の英知を新病院に活かしたら…」。“34000人の英知”というフレーズに、途方もないエネルギーを感じます。

これまでのもしプロでは、新病院紹介リーフや外装内装など、さまざまなテーマについて意見をだしあい、それは、病院の外観やサイン表示、内装などに反映されてきました。1月17日の第10回もしプロは「患者・利用者に優しい病院づくり」として待合の家具がテーマでした。60名を超える参加者が、もしプロのためだけに設置したショールームで椅子を体感したあと、グループに分かれて感想を出し合いました。好みはさまざまですが、プライベート空間が確保される隣席との境界があるものなど、椅子にも流行があることを知りました。今回のもしプロには学びもありました。冒頭に、新病院建設コーディネーターを務めていただいている“グリーン・ホスピタル・サプライの宮里氏”から病院コーディネートハウツーと、現代の病院づくりについてお話しいただきました。いくつかの大震災を経験し、去年は広島でも大規模土砂災害がありました。都心に程近く大田川放水路にも近い当院の立地から、災害時を想定した家具の機能についての病院設備に、とても関心が高いようです。

3月6日7日には建設中の建物に、2日間だけのモデルルームを設置してみなさんに見ていただくアクティブ企画もおこないました。これからも、もしプロは、たくさんの英知で病院建設に取り組んでいきます。組合員ならどなたでも参加できる「もしもプロジェクト」に、ぜひご参加ください。



いのちの章典実践交流会

広島中央保健生活協同組合 組織部長 田中 敬子

1月29日に、生協利用委員会の主催で「2014年度『いのちの章典』実践交流会」を開催しました。「いのちの章典」とは、医療生協が1991年から医療活動の指針にしていた「患者の権利章典」を発展させたもので、憲法をもとに人権が尊重される社会と社会保障の充実をめざすにあたって、私たちの権利と責任を明らかにしたもので、そのうちの「アクセスに関する権利」についてを、地域包括ケアづくりと重ねて、実践的に深めようというのが、今回の企画の目的でした。

まず、当生協の利用者でもあり運営者でもある組合員より、地域での実践報告がありました。まず「夢を広げて・・・あったらいいなこんなサービス」という演題名で、一人暮らし高齢者が増える地域で、「いつでも、誰でも一日遊べるサロンがほしい」など、組合員組織の支部で夢を描くのが大変楽しかったという報告でした。続いての「『陽だまりサロン』で楽しいひととき」は、実際に東区でサロンを運営している支部より、ちぎり絵やセラバンド体操などの写真や実際の作品紹介を織り交ぜながらの報告となりました。最後に、当生協の2番目の病院・生協さえき病院への送迎サービスを開始した実践を、バスの便が大変不便なので、とても喜ばれているという利用者の声を交えて報告されました。

さらに、後半は職員より、医療と介護の連携を進めている報告がありました。観音地域包括支援センターからは、開業医と介護部門の職員が顔の見える関係づくりを進めている実践報告。福島生協病院地域医療連携室では、西区医師会と協同して取り組んでいる「西区在宅あんしんネット」の活動報告と福島生協病院内に作った地域包括ケア病床の役割、さらに新病院に向けて展開について。医療相談室からは、「地域包括ケアシステム」というけれども、現実の「地域」はまだまだ介護力が不十分で自宅への退院が困難な事例も少なくないという報告がされました。

演題発表を聞いた後は、69名の参加者が8グループに分かれて討論を行いました。「発表は大変参考になった。自分達の地域でもサロンがほしい」などの意見が出ていました。広島中央保健生協では、福島生協病院などの事業所職員と、医療生協組合員との協同で、地域包括ケアづくりに向けて、さらに活動を推進していきます。



学術集会を開催しました

実行委員事務局 大田 聡（広島中央保健生活協同組合 組織部）

第9回福島生協病院・生協さえき病院学術集会が、1月24日（土）14時～17時 生協けんこうプラザにて行われました。

当日の参加者は98名で、医師・歯科医師・薬剤師・看護師・放射線技師・臨床検査技師・理学療法士等セラピスト・訪問看護師・ケアマネジャー・ヘルパー・地域医療連携室・相談室など生協内の多くの事業所から多様な職種が集まり、発表とそれについての議論を行いました。

当日発表された演題は以下のとおりです。

- | | |
|--------------------------------------|------------|
| ①当院におけるCART（腹水濾過濃縮再静注療法） | 外科医師 |
| ②人工膝関節置換術後 硬膜外血腫を発症した2症例 | 整形外科医師 |
| ③簡易懸濁法 ～薬剤から見た簡易懸濁法 | 病院薬剤師 |
| ④認知症患者との関わり ～物忘れ外来受診に向けた取り組み | 外来看護師 |
| ⑤インシデント予防意識の変化 ～インシデント振り返りマップを取り入れて～ | 病棟看護師 |
| ⑥ターミナルケア患者との関わりの中で ～全人的苦痛から考察して～ | 病棟看護師 |
| ⑦摂食嚥下障害への取り組み | 歯科医師 |
| ⑧肝生検で得られた病理診断による治療方向 | 検査技師 |
| ⑨脊柱管狭窄症の既往があり左脛骨外側高原骨折を呈した一症例 | 病院理学療法士 |
| ⑩患者教育の重要性 ～セラピスト依存症型リハビリからの脱却～ | 病院理学療法士 |
| ⑪アームレスリングによって右上腕骨骨幹部骨折を呈した症例 | 病院作業療法士 |
| ⑫転院相談の実際 ～何故在宅に戻れないか～ | 相談室 |
| ⑬病院リハと在宅リハとの連携を考える | 訪問理学療法士 |
| ⑭観音圏域における医療と介護の連携の報告 | 観音包括支援センター |
| ⑮在宅生活を送るセルフ行動困難な糖尿病患者のとかかわり | 訪問看護師 |
| ⑯在宅で暮らすこと ～本人の思い・家族の思い・ヘルパーの思い～ | サービス提供責任者 |
| ⑰地域で広がる医療生協の健康づくり | 組織部事務 |
| ⑱被爆体験を聞いて ～2年目研修のまとめ～ | 2年目研修者 |

参加者からは以下の感想が出されました。

・ 歯科医師や相談員の話聞くことができ興味深かった。・ 医師、薬剤師、検査技師など現在の治療が学べた。・ 観音地域での医師、訪問看護師、ケアマネ連携会議や意見交換会に病棟看護師に入れば退院前の様々な事例検討が出来るのではないかと考えた。・ 前向きな取り組みを聞くことができ、いい刺激となった。・ 長期的な視点に立ち、病状や病気だけでなく、"患者を看ること"の大切さを改めて学んだ。・ 全法人から様々な演題が出され、法人の医療活動、介護活動の経年的な成長を見ることができた。・ 当生協の医療活動が色々な角度から知ることができ、改めて医療生協のよさを感じた。

感想にあるように細かな点では問題点が残ったとはいえ、全体としては、多くの職種からの発表があり、それを通してよりよい地域包括ケアシステムを実現するために地域の様々な方と連携・連帯・協同する土台となる医療生協の活動を確認できました。



外来診療のご案内

福島生協病院の外来の診療につきまして、2015年4月より、以下のとおりに変更させていただきます。よろしくお願いいたします。

内科・神経内科

		月	火	水	木	金	土
午前診	1 診	大 津	神 尾	高 岡	神 尾	琴 崎*	(大 学)
	2 診	楠 本		飯 田	大 津	飯 田	(交 替)
	3 診	石 原	多比良	濱 本	楠 本*	楠 本	(交 替)
	4 診	保手浜	石 原*	保手浜	石 原	濱 本	
午後診						高 岡* (ペースメーカー)	

※*のマークのある診療は予約が必要です。

皮膚科

月曜日、金曜日、土曜日の午前の診療となります。

月	火	水	木	金	土
横 林				菅	岩本/高坂

市民公開講座開催～西区在宅あんしんネット

3月14日(土)西区民文化センターにて、平成26年度広島県在宅医療推進拠点整備事業「西区在宅あんしんネット」市民公開講座が開催され、197名の方のご参加をいただきました。

「在宅医療への西区医師会の取り組み」の報告を西区医師会理事である落久保先生より、また広島県健康福祉局長の笠松様より、「広島における地域包括ケアの今後について」のご講演をいただきました。「西区であんしんして暮らしていけるね」と思っただけのような活動をこれからも西区医師会在宅あんしんネットで取り組んで参ります。



●基本理念●

私たちは、患者さんの立場に立った医療を実践します。

基本方針

- 1.インフォームド・コンセント(説明と意思決定)を重視し、信頼される医療を提供します。
- 2.教育・研修活動をすすめ、医療、看護、接遇の向上につとめます。
- 3.地域の人々とともに、医療、福祉、介護のネットワークづくりをすすめます。

編集後記

新年度になり、少しずつ暖かくなってきました。新病院も着々と内装が出来てきていることと思います。新しい建物になるので嬉しいのですが、片付けの苦手な私は引越作業が今から心配です。そんな時は、仕事を忘れてぼーっと桜を眺めるのもいいかもしれませんね。(I)

